

浅香康人さんと私
—真面目で優しい人—

キウシン
L組 祁雨晨

1. 浅香康人さんの初印象

初めて浅香康人さんと会った時頭に一番浮かべた言葉が「イケメン」と言う話は冗談だけど、実際に私に深い印象を残しているのは康人さんのユーモアのセンスと真面目である。

グループメンバーと初対面のとき、ドキドキしていて緊張であった。でも、康人さんが気楽そうな口調で笑い話を言ったら、みんなさんに笑わせちゃった。それで先ちよっと不自然な空気が急に軽くなって、お互いに話しかけてみたら、「みな親切だな」ということを気づいた。

そしてグループの名前を決める時、メンバー達とずっと討論していても、共通点がなかなか見つけられなかった。見る間に時間であった。康人さんは「桜好き？全員好きでしょう？じゃ桜班にしよう」と、「桜班」の名前が決まった。たぶん私は優柔不断だから、康人さんみたいな真面目で、決断な人をちょっと羨ましいのである。

あとは散歩に行った時、私は予定のカメラを寮に忘れてしまった。焦って康人さんと「ごめんなさい、カメラ忘れちゃった」と言ったら、康人さんが気にかけないようにかばんからカメラ1つを取り出して、「持ってくるよ」と言った。その時の康人さんが本当に格好よかったと思う。

1人だけについて書けると実に残念である。康人さんも、聖人さんも、ローンさんも、みなさん親切で、いい人だと思う。これからみなさんと一緒に過ごす授業を楽しんでいる。

2. 一回目の談話：自己要求と理想性格

私は書いた印象文を読んでいたあと、浅香康人さんが「大体あった。でも実は、私は優柔不断な人だった」と言う話を言ったら、私は驚いた。Lグループの中、康人さんは恐らく最も決断力を持っている人かもしれないと思っていた。

康人さんは「自分が優柔不断な人だと思うからこそ、自分がためらわず決断するような性格を作っている」と言い訳をした。康人さんにとって決断力が作られる品質だ。そこから見ると、康人さんが自分の欠点をはっきり分かれて、その欠点を長所へ改善するために一生懸命頑張っている人だということが知られる。

「どのような性格を気にしているのか」と聞かれると、「前向き」というキーワードが出た。「悪い状況に落ち込んでも楽観な態度を持っていて、いい側に問題を考えられて、前に進み続ける性格が好きだ。」康人さんがそう言った。康人さんは自分が少し非観っぽくて、悪いことに当たたらなかなかいい方面に考えられないという話を言った。「そこまで強い人はあまり多くないね。」私は賛成した。「前向き」は康人さんの理想性格だが、同時に彼はそういう自己要求を持っている。決断力を作った例とともに見ると、康人さんは自分に要求が高く厳しく、さらに完璧になるように努力していると思う。

その他、少し関係のない話だけど、康人さんが音楽に夢中になった人なので、彼が最も好きなバンド「Bump of Chicken」の曲、私も聞いてみた。すごく明るくて元気なリズムで、康人さんとふさわしい曲だった。

3. 二回目の談話：サークル、柔道

初めて談話したとき、私は康人さんの性格と関心持っていることについて色々聞いたら、先生から「直接に性格はどういう性格なのかと聞くよりむしろある具体的な事件について聞いて、その事件からその人はどのような人なのかもっと明らかに分かれるはず」と意見をもらった。したがって、今度私は康人さんと柔道、サークルなど、具体的な話題を巡って話した。

康人さんは昔から柔道をやっていて、しかも水準も悪くない。彼は大学に入っても柔道をやって続けたい。秋田大学の柔道部は全国でも有名で、全国大会に入る程度に強そうであるが、康人さんが医学部の柔道部に入部した。なぜレベルの高い方を選ばなかった原因について康人さんはそう言った。「学校の柔道部は試合を目標するので、練習は時間が多くて、要求がめっちゃくちゃきつい。柔道は昔からやって続けているけど、柔道が好きだけど、やはり勉強が1位だ。医学部の柔道部は訓連が相対的に優しいので、余裕の時間を利用して勉強に頑張れる。」その選択から康人さんはとても理性的な人ということが分かる。康人さんは自分がやりたいことと自分何程やりたいことがよく知っていて、冷静に選択することができる。

そして康人さんは体育大会で試合のビデオを見せてくれた。私は昔から柔道の試合あまり見たことなかったので、こう真面目に試合を見ることは初めてなのである。康人さんは対戦相手の前に、ちっとも緊張しなくて、冷静に対応して勝った。すごかった。そのうえ、康人さんは柔道のルール、どうすると勝つのか、また、十字固めみたいな言葉について、康人さんが絵を描いたり身振り手振りをしたり、詳しく説明してくれた。そこから、康人さんはとても優しい人ということを知った。康人さんは私が理解できるように各手段を利用して一生懸命解釈してくれた。そして、談話中しんとする状況を避けるため、話題を探す努力もいっぱい出してくれた。したがって、私たちの談話が一度の沈黙もなくうまく行けた。それは私にとって非常にありがたいことであった。

4. 浅香康人さんとの三回目の談話：理系男子、医者になる理由

私と浅香康人さんの三回目の談話は先に決められた話題がなくて、自然に何かを始まりとして、話題を流れて続いた。

最初は理系学科について色々話し合った。中国で高校生が理系あるいは文系二つの学科に分けられている。私は昔から「理系を選ぶ人大多数は数学が強い、数学が強い人は必ず頭いい」という理解がある。康人さんはその数学強い人なのである。それに対して、康人さんは文系の科目あまり興味を持っていなさそうである。「私は本が嫌いだ。本を読んでいる時どうしても集中できなくて、すぐ眠くなる」と、康人さんがそう言った。そして私は今までみた頭めっちゃくちゃいい人何人を挙げた。そのなかに、日本有名な知力を試合する番組に出た数学天才もいる、Sherlock Holmes もいる。康人さんは「それは多分人間じゃないね」と笑っていった。自分がそういう人間じゃなくてもそういう人間になりたくなさそうである。

また、私は将来やりたいことについて聞いた。康人さんは高校から医者になる志望が持ってくると秋田大学の医学部に入ってしまった。その前に康人さんもいくらの志望があって、順番からは警察、消防員と検事である。人を救えて、また、悪人に罰をかけられる職業ばかりである。そのため康人さんは正義感が強い人とは分かる。それで何故か最後

に医者になりたいのかと聞けば、康人さんは少々まじめな顔をして、自分の家族で心臓が弱い人という話を言った。康人さんのお父さんと妹さんじゃ心臓が弱いので、二人とも手術をかけた経験がある。康人さんは素人の私も理解できるため、詳しく絵を描いて説明してくれた。

康人さんは非常に優しい人である。私はもっとかたく信じている。お父さんと妹さんを治すために医学部に入って、一生懸命勉強している康人さんの姿は前よりもっとかっこよくなる。

「医学は人の命を救える学科だ。だから頑張らないと本に書いてある知識を全部で覚えないとダメだ。」医学生の方は既にこういう覚悟をもって、私にドラマの主人公みたいな既視感を残った。康人さんは来年解剖の授業とかいろいろ受け取っては始めるそうである。彼はまだ血液にちょっと苦手だが、頑張りたい気持ちがよく見える。

5. 結論

今までの接触から、浅香康人さんはとても優秀な人だということは良くわかる。その優秀さは具体的に言えば、康人さんは他人の気持ちを考えられている優しさと理系男子の冷静を同時に持っていることである。加えて、自分の本当にやりたいことを明確に知っている揺れなくて進む真面目さである。しかし、時々、康人さんは少し自信不足のことも気づいている。多分それは謙遜かな。それも康人さんのいいところだとも思うけど、自分を信じると康人さんはやりたいことをかならずできる。わたしはそう信じている。

6. 授業を終えて

6.1 文化、コミュニケーションとは何か

最初の授業で、グループの皆さんは自分と結んでいるそれぞれの文化を紹介してくれて、私は初めて「なんと、人によって自分と結んでいる文化も違うか」ということを認識してきた。浅香さんと沖村さんは同じ日本人だけど、自分と関連する文化もそれぞれ違う。そう見れば、文化とは人の成長してきた環境や地域などと強くつながっているものである。しかもそのつながりは決して変化しないものではないと思う。グループメンバーのローンさんが持っているベトナム文化は今、日本文化と交流していて、既に新しい文化になったと思う。したがって、文化とはコミュニケーションの中で変化し、発展していくものである。コミュニケーションは自分自身の文化を発見できて、発展していくために、欠かないといけない手段だと思う。

6.2 授業について

私にとって難しかった点は全く知らない人、しかも国籍の違う人と深く交流することである。初めて会ったのに、自分と関する文化を紹介することはかなり不自然で、難しいと思う。よかった点は、この授業のおかげさまで、色々な異文化体験をできた。強制的にパートナーと談話すると、自分が恥ずかしすぎるとなかなか口を出せなかったという難点も乗り越えた。改善してほしい点は、談話として相手のことを知れるけど、やはりさらに仲良くなりたければ、もっと活動が必要だと思う。合宿と一緒にいける実践活動はかなりいい方法だと思う。